

# JPEC BULLETIN

## 研修センター ニュース

Sep. 2021

編集・発行

公益財団法人

日本薬剤師研修センター

東京都港区赤坂1-9-13

三会堂ビル5F 〒107-0052

電話 (03)3568-8201

FAX (03)3568-0821

URL <http://www.jpec.or.jp/>

製作 (株)薬事日報社

### 頑張れ、薬剤師！

一般財団法人日本医薬情報センター 理事長 赤川 治郎

いつの時代でも当事者は大変な思いをしているのかもしれません、今のこの時代に薬の扱い手として業務を遂行している薬剤師ほど大変な思いをしている薬剤師はいまだかつていないのではないかと思います。

調剤業務については、非薬剤師の関与のほか、調剤ロボットの活用やAIによる薬剤情報の提供もされている中で、薬剤師業務範囲の規制緩和の観点からの見直しにより、直接関与し、または管理し責任を負うべき業務とは何かを問われる一方で、コロナ禍において予防接種の緊急避難的な注射行為への関与問題が俄かに浮上しています。薬学的指導については、医療・介護チームにおける患者に関する情報共有が必要とされる中での薬剤情報の直接対面または遠隔による患者とのコミュニケーションへの対応が求められます。

薬剤情報については、電子化された添付文書によりリアルタイムに入手される情報に基づき業務を行うことが求められるとともに、添付文書情報以外の医薬品の品質に係る回収等の情報についても即時に適切に対応することが求められるほか、同一成分内のジェネリック医薬品の調剤のみならず、同一薬効群内の薬価も含めたより適切な薬剤の選択に資する、いわゆるフォーミュラリーについても、医療機関内、あるいは一定地域内でのコンセンサスも経て、作成・活用を検討することが求められています。

薬局の機能については、薬学的な管理・指導を適切に実施する環境を整え、かかりつけ薬局の機能を法律上明確化し患者選択に資するよう、地域連携薬局および専門医療機関連携薬局の認定制度が創設され、これらにより整備される薬局の機能の中で薬剤師も対応していく必要があります。

こうした、まさに多様な対応を求められる中で、累次改正される制度を知り、常に確かな情報に基づき自己の薬学的知識を向上させ、実務に活かしていくためには、薬剤師として現役を続ける限り「研修」を受けることは必須であり、「頑張れ、薬剤師！」です。そういう意味において、日本薬剤師研修センターの提供する研修の一層の発展を期待するものです。

最後に、私ども日本医薬情報センターでは医薬品情報の収集・提供を通じて、薬剤師の皆様への業務にも少しでもお役に立てるよう努めてまいりたいと存じます。

### 今月の主な記事

#### 巻頭

・頑張れ、薬剤師！ 1

#### センター主催研修会

・病態と薬理を理解して薬学的ケアを実践する  
－高血圧症－研修会開催のご案内 2

#### 事業報告等

・令和2年度事業報告 3  
・令和2年度事業報告附属明細書 6

#### センター便り

・薬剤師研修・認定電子システム(PECS)について 12

## 病態と薬理を理解して薬学的ケアを実践する－高血圧症－ 研修会開催のご案内

主催：日本薬剤師研修センター

後援（予定）：日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本保険薬局協会、くすりの適正使用協議会

本年度は、高血圧症の病態と治療、薬物治療と薬学的ケアの実際について講義していただきます。

受講のお申込は、当財団ホームページ (<http://www.jpec.or.jp/>) 上の「薬剤師研修支援システム」からとなります。詳細は当財団ホームページをご確認の上、お申込下さい。

◆開催日・会場・定員（当財団賛助会員を含む）：※受付は先着順で、定員になり次第締め切ります。

開催地区	日程（予定）	会場（予定）	定員
大 阪	2021年10月24日（日）	大阪YMCA国際文化センターホール（大阪府大阪市西区土佐堀1-5-6）	100名
東 京	2021年11月14日（日）	ベルサール八重洲 3階 Room 1.2.3 (東京都中央区八重洲1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル)	100名

◆プログラム：※プログラムの順番等は変更される場合がありますので、ご了承下さい。

時 間	演 題（仮題）	講 師（敬称略）
12：20～12：30	挨 捶	日本薬剤師研修センター
12：30～14：00	高血圧症の病態と最近の治療	帝京大学福岡医療技術学部 医療技術学科長／教授（内科学） 河野 雄平
15分	休 憩	
14：15～15：45	高血圧症の薬物治療と薬学的ケアの実際	大阪医科大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター 特任教授 和田 恭一

◆受講料（講演要旨集代、送料込）：お申込完了後の受講料の返金はいたしませんので予めご了承下さい。

一般：4,400円（本体4,000円、税400円）

当財団個人賛助会員：3,300円（本体3,000円、税300円）

### 研修認定薬剤師制度認定対象研修会（集合研修）

当財団ホームページの「研修・試験案内」の「研修認定薬剤師制度の研修」をご参照下さい。

### 研修認定薬剤師制度 集合研修対象 インターネット研修

当財団では平成14年6月より、インターネット研修を研修形態の1つとして取り入れました。このインターネットによる研修は、当財団に登録されたインターネット研修実施機関が行います。インターネット研修のメリットは、国内・外に在住する薬剤師が必要な研修項目を選択し、時間にとらわれることなく自己計画によって学習できることにあります。各研修会を受講し、単位申請を行うと、「集合研修」としての単位が修得できます。90分の講義に対して1単位の受講シールを発行します。是非ご利用下さい。

※インターネット研修による集合研修は、当財団が認めたテストまたはアンケート等を含めた所定の課程に則って行います。

研修会名称	実施機関
インターネット薬剤師生涯教育講座	ファーマストリーム ( <a href="http://www.pharmastream.net/">http://www.pharmastream.net/</a> )
メディカルナレッジ	医療教育研究所 ( <a href="https://www.medical-knowledge.net/">https://www.medical-knowledge.net/</a> )
薬剤師のためのe-ラーニング	MPラーニング ( <a href="https://www.mp-learning.com/">https://www.mp-learning.com/</a> )
副作用診断教育プログラム	徳島文理大学香川薬学部 ( <a href="https://kp.manabinaoshi.jp/">https://kp.manabinaoshi.jp/</a> )
地域包括ケアを担う薬局薬剤師の為のインターネット研修	杉浦記念財団 ( <a href="http://sugi-zaidan.jp/iseminar_new/index.html">http://sugi-zaidan.jp/iseminar_new/index.html</a> )
かかりつけ薬剤師.com	医歯薬アドバンス365 ( <a href="https://www.かかりつけ薬剤師.com/">https://www.かかりつけ薬剤師.com/</a> )
AMEE薬剤師生涯学習プログラム	医薬教育倫理協会 ( <a href="https://pllp.amee.or.jp/">https://pllp.amee.or.jp/</a> )
「サブネット」かかりつけ薬剤師の為のサプリメント・健康食品動画研修プログラム	NHPインターナショナル認定機構 ( <a href="http://sapnet.jp/">http://sapnet.jp/</a> )

## ▷ 令和2年度事業報告

### I 研修・認定関係

#### 1 各認定薬剤師の認定状況

国民の健康に寄与するため、薬剤師が生涯にわたり研修を続け医療専門職としての職能を維持向上させていくことが重要である。公益財団法人日本薬剤師研修センター（以下「研修センター」という。）は、薬剤師の研修に対するモチベーションが維持でき、かつ国民にわかりやすい認定制度の運営に努めた。

なお、令和2年春に始まった新型コロナウイルス感染症の影響により、いわゆる3密を避けるために研修会等における対応が必要となった。研修センターが主催する研修会及び試験においては、感染防止対策を講じ、かつ参加者数を大幅に制限することにより開催・実施したが、開催・実施の中止のやむなきに到ったものも相当数あった。また、研修実施機関の開催する研修会等に関しては、その影響緩和のため、「いわゆる座学による研修会の実施方法に関する時限的特例について」を定め、いわゆる座学による研修会において、ウェブ会議ツールを使用した受講（講義の実施と同時に配信するもの）を許容することとした。加えて、認定薬剤師に対しては、更新認定申請の単位取得期間の延長を認めることとする措置を講じるとともにe-ラーニングの有効活用を推奨した。

##### 1) 研修認定薬剤師

あらゆる職域における薬剤師の自己研鑽活動を支援するため、個々の薬剤師の研修実績を認定するものである。

令和2年度の認定薬剤師証交付数は33,908（昨年度51,034）で、令和3年3月31日現在の認定者数は110,293名となっている。

なお、薬剤師生涯学習達成度確認試験は令和2年9月13日に予定していたが、中止した。

##### 2) 漢方薬・生薬認定薬剤師

研修センターと日本生薬学会とが共同で、漢方薬・生薬に関する専門的知識を修得し、能力と適性を備えた薬剤師を認定するものである。

令和2年度の漢方薬・生薬認定薬剤師証交付数は1,087で、令和3年3月31日現在の漢方薬・生薬認定薬剤師数は3,603名となっている。

##### 3) 小児薬物療法認定薬剤師

研修センターと日本小児臨床薬理学会とが共同で、小児科領域において医薬品に関わる専門的立場から医療チームの一員として小児薬物療法に参画するための能力と適性を備え、さらに患児とその保護者等に対しても適切な助言及び行動ができる薬剤師を養成し、認定するものである。

令和2年度の小児薬物療法認定薬剤師証交付数は202で、令和3年3月31日現在の小児薬物療法認定薬剤師数は751名となっている。

##### 4) 認定実務実習指導薬剤師

六年制薬学教育における実務実習の指導に当たる実務薬剤師を認定するもので、平成17年度に厚生労働省補助事業として発足した。平成22年度からは研修センターの事業として引き継いでいる。

令和2年度の新規認定証交付数は、519（病院薬剤師186、薬局薬剤師333）で、令和3年3月31日現在の認定実務実習指導薬剤師数は、26,299名となっている。

平成27年5月から6年間の認定期限終了者に対する更新認定を開始している。令和2年度の更新認定証交付数は1,312である。

### 2 研修会実施機関の登録と単位の交付

#### 1) 研修会実施機関

集合研修、実習研修、インターネット研修など、研修センターの研修単位交付対象の研修会を計画・実施する機関（団体等）を研修会実施機関として登録している。都道府県研修協議会、都道府県の薬剤師会・病院薬剤師会・各支部、薬学系大学、医学薬学関連学会などで、その数は令和3年3月31日現在、1,616機関（団体等）である。

#### 2) 研修単位の交付状況等

令和2年度の研修単位交付対象となる集合研修会の開催件数は、研修センターが実施するものを含めて7,089件である。

### 3 研修会の開催

研修会は、①座学研修、②DVD集合研修、③e-ラ

ニング（VOD配信（Video on Demand）及びストリーミング型）及び④実習・見学の方法で実施した。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応策として、ウェブ会議ツールを使用して集合研修を開催できることとした時限的特例を設けた。

#### 1) 病態・薬理シリーズ研修

医療薬学の最近の進歩にあわせ、疾患の病態については専門の医師が、疾患の薬物療法の実際については専門の薬剤師が、各々講義することを基本に組み立てた研修会で、令和2年度の座学研修は国際感染症Ⅲを東京会場のみで開催し146名が参加した。開催予定であった胃がんは東京会場、大阪会場とも中止、国際感染症Ⅲの大坂会場も中止した。

なお、この収録DVDはe-ラーニングに供した。また、既収録DVDを用いてe-ラーニングを行った。

#### 2) 1日薬局・病院実務研修

研修受入施設として令和2年度は病院116施設、薬局60施設が登録され、参加者は3名であった。

参加者が近年大幅に減少しているため、令和3年3月31日限りで廃止した。

#### 3) 企業薬剤師対象研修会

独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）との共催で、①医薬品承認申請実務担当者研修会、②GLP研修会及び③GCP／GPSP研修会を予定していたが、すべて中止した。

#### 4) 漢方薬・生薬領域の研修会

##### (1) 認定取得のための講義研修

一般社団法人日本生薬学会と共同で、漢方薬・生薬認定薬剤師の認定を取得するために必要な47コマ（1コマ70分）の講義を行う予定であったが、座学及びDVD集合研修は中止し、令和元年度に収録したもの（一部改変）を用いてストリーミング型e-ラーニングのみを、令和2年7月から令和3年3月まで実施し、参加者数は426名であった。

##### (2) 薬用植物園実習

認定取得又は更新の目的のために、薬用植物園実習を全国約50施設で実施した。

##### (3) 認定更新のための研修

令和元年度の漢方薬・生薬研修会を認定更新者用にアレンジした講座を、ストリーミング型e-ラーニングに供し、参加者数は1,451名であった。

#### 5) 小児薬物療法認定薬剤師に係る研修会

##### (1) 小児薬物療法研修

収録及び配信をラジオNIKKEIに委託し、e-ラーニングによる研修を実施した（令和2年4月から12月まで）。配信数は36コマ（1コマ約1時間）で、参加者数は216名であった。

##### (2) 1日実務研修

認定要件である1日実務研修を全国23施設で実施し、19名が修了した。

#### 6) 認定実務実習指導薬剤師に係る研修会

認定実務実習指導薬剤師養成講習会を、都道府県薬剤師会、都道府県病院薬剤師会、薬学教育協議会等が実施機関となり、179件（講座①、②、③及び④の合計）実施した。

#### 7) その他の研修会（健康サポート薬局研修）

公益社団法人日本薬剤師会と共同で健康サポート薬局研修に係る研修会を実施した。令和2年度の研修修了証発行数は、1,146であった。また、延長（更新）が開始され、その修了証発行数は117であった。

#### 4 委員会等の開催

各認定制度の円滑な運営を協議するため、各委員会の開催を予定していたが、小児薬物療法研修委員会（1回）及び同試験問題作成委員会（1回）のみの開催となった。

#### 5 広報

研修センターの広報は、①インターネットホームページ及び②毎月発行する「研修センターニュース」が主要な媒体であり、令和2年度も、その充実に努めた。

その他、日本薬剤師会雑誌など、薬剤師の購読が多い雑誌に研修会の案内等を掲載し、広報に努めている。

#### 6 薬剤師研修・認定電子システム（PECS）

薬剤師研修・認定電子システム（PECS）の構築を進めた。

都道府県薬剤師研修協議会に対して、令和2年12月24日及び令和3年3月4日に連絡会を開催した。また、令和3年3月15日から薬剤師のPECS登録を開始した。その登録方法については、ホームページに掲載している。

## II 出版・監修関係

### 1 薬剤師研修手帳の作成、頒布

薬剤師研修手帳は、認定を目指す薬剤師が、取得した研修単位を記録・管理するものである。有償、無償を合わせて、令和2年度の研修手帳頒布数は、47,313冊であった。

薬剤師研修・認定電子システム（PECS）の構築が進んでいることから、令和3年2月末を以て薬剤師研修手帳の研修センターにおける購入申込みの受付を終了した。なお、薬剤師研修・認定電子システム（PECS）の本稼働までの間の研修単位を記録・管理するため、「研修認定薬剤師研修受講シール整理表」を作成し、ホームページに掲載した。

### 2 病態・薬理シリーズテキストの頒布

研修センターが行った「病態・薬理シリーズ研修会」のテキストを販売した。

### 3 薬剤師研修に役立つ書籍の編集

薬剤師の研修に役立つ書籍を、出版社と協力して編集・発行しており、令和2年度は次の書籍を編集した。

医薬品・医療機器・再生医療等製品GLPガイドブック2020（薬事日報社発行）

医薬品・医療機器・再生医療等製品GCP／GPSPガイドブック2020（薬事日報社発行）

なお、次の書籍は、平成28年度に編集・発行したものであるが、第6刷が発行された。

第十七改正日本薬局方医薬品情報 JP DI 2016（じほう発行）

### 4 受託作成事業及び特別賛助会員が実施する研修会

両者とも、令和2年度の申込みはなかった。

## III 法人関係

### 1 理事会、評議員会等

令和2年6月に令和2年度第1回理事会を文書（決議の省略方式）で開催し、令和元年度事業報告、令和元年度決算などを審議した。なお、この措置は、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえた緊急的なものである。

令和2年6月に理事会と同様に令和2年度第1回評議員会を文書（決議の省略方式）で開催し、令和元年度決算を審議し、評議員を選任した。また、令和元年度事業報告が報告された。

令和2年10月13日(火)に令和2年度第2回理事会を開催し、辞任に伴う監事候補者の選定などを行った。また、代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況報告などを行った。

令和2年10月に令和2年度臨時評議員会を文書（決議の省略方式）で開催し、監事の選任を行った。

令和2年11月に、決議の省略方式による臨時理事会を開催し、特定費用準備資金の一部目的外取崩しを審議した。

令和3年3月8日(月)に令和2年度第3回理事会を開催し、令和3年度事業計画、令和3年度収支予算などを審議した。また、代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況報告などを行った。

### 2 賛助会員

令和3年3月31日現在の賛助会員の状況は、賛助会員（個人）367名、特別賛助会員（企業等）32社（団体）である。

## 令和2年度事業報告附属明細書

( ) 内の数字は令和元年度

## I 研修・認定関係

## 1 各認定薬剤師の認定状況

## (1) 研修認定薬剤師

令和2年度認定薬剤師証交付数	33,908名 (51,034名)
うち初回認定者	13,100名 (11,452名)
うち更新者	20,808名 (39,582名)

令和3年3月31日現在の研修認定薬剤師総数	110,293名
(平成6年度からの初回認定の累計)	170,116名)
薬剤師生涯学習達成度確認試験	中止

## (2) 漢方薬・生薬認定薬剤師

令和2年度漢方薬・生薬認定薬剤師証交付数	1,087名 ( 1,332名)
うち初回認定者	362名 ( 512名)
うち更新者	725名 ( 820名)

令和3年3月31日現在の漢方薬・生薬認定薬剤師総数	3,603名
(平成13年度からの初回認定の累計)	7,606名)

## (3) 小児薬物療法認定薬剤師

令和2年度小児薬物療法認定薬剤師証交付数	202名 ( 311名)
うち初回認定者	97名 ( 164名)
うち更新者	105名 ( 147名)

令和3年3月31日現在の小児薬物療法認定薬剤師総数	751名
---------------------------	------

## (4) 認定実務実習指導薬剤師

令和2年度認定実務実習指導薬剤師証交付数 (初回認定者)	519名 ( 1,866名)
うち病院薬剤師	186名 ( 648名)
うち薬局薬剤師	333名 ( 1,218名)

令和2年度認定実務実習指導薬剤師更新認定証交付数	1,312名 ( 1,279名)
令和3年3月31日現在の認定実務実習指導薬剤師総数	26,299名

## 2 研修実施機関の登録と単位の交付

## (1) 研修実施機関

令和3年3月31日現在の登録研修実施機関数	1,616 ( 1,604 )
-----------------------	-----------------

## (2) 研修会開催計画書等受理数

集合研修	7,089件 (15,010件)
実習研修	78件 ( 393件)
グループ研修	1,098件 ( 1,958件)
自己研修	3,986件 ( 2,759件)
インターネット研修	84件 ( 88件)

認定実務実習指導薬剤師養成講習会	
講座①	46件
講座②	45件
講座③	45件
講座④	43件

## 3 研修会開催

## 1) 座学（講義）形式による研修会

(1) 病態・薬理シリーズ研修			
① 胃がん	中止		
② 國際感染症Ⅲ（東京）（令和2年度後期）	146名		
(2) 企業薬剤師対象研修会	中止		
(3) 漢方薬・生薬研修（東京）	中止		
2) DVD集合研修、CD自己研修			
(1) 漢方薬・生薬研修	中止		
(2) 新カリキュラム対応研修（自己研修CD（改訂版）による研修）	0名		
3) ビデオ・オン・デマンド（VOD）研修			
(1) 病態・薬理シリーズ研修			
① 乳がん（平成28年度前期収録）	30名		
② 心不全（平成28年度後期収録）	20名		
③ 前立腺がん（平成29年度前期収録）	24名		
④ 高血圧（平成29年度後期収録）	20名		
⑤ 肺がん（平成30年度前期収録）	25名		
⑥ 國際感染症Ⅰ（平成30年度後期収録）	19名		
⑦ 血液がん（令和元年度前期収録）	31名		
⑧ 國際感染症Ⅱ（令和元年度後期収録）	21名		
⑨ 國際感染症Ⅲ（令和2年度後期収録）	22名		
(2) 医薬品の適正使用のための情報の収集・評価、共有化に関する研修	10名		
(3) 薬剤師が知っておきたいバイオ医薬品の基礎知識	24名		
(4) 薬剤疫学入門セミナー	12名		
4) e-ラーニング			
① 乳がん（平成28年度前期収録）	650名		
② 心不全（平成28年度後期収録）	250名		
③ 前立腺がん（平成29年度前期収録）	530名		
④ 高血圧（平成29年度後期収録）	311名		
⑤ 肺がん（平成30年度前期収録）	750名		
⑥ 國際感染症Ⅰ（平成30年度後期収録）	468名		
⑦ 血液がん（令和元年度前期収録）	466名		
⑧ 國際感染症Ⅱ（令和元年度後期収録）	435名		
⑨ 國際感染症Ⅲ（令和2年度後期収録）	326名		
(2) 医薬品の適正使用のための情報の収集・評価、共有化に関する研修	229名		
(3) 薬剤師が知っておきたいバイオ医薬品の基礎知識	484名		
(4) 薬剤疫学入門セミナー	132名		
(5) 漢方薬・生薬研修			
① 漢方薬・生薬薬剤師講座27（令和元年度の更新者向け版）（再使用）	1,451名		
② 令和2年度漢方薬・生薬研修（令和元年度を一部改変）	426名		
(6) 小児薬物療法研修	216名		
5) 実習研修			
(1) 1日薬局・病院実務研修			3名
研修受入施設登録数		病院	119施設
		薬局	59施設
(2) 薬用植物園実習（初回認定対象者を除く。）			56名
実習実施施設：全国薬科大学、公的機関植物園、企業植物園など約50か所			
(3) 小児薬物療法1日実務研修			19名
研修受入施設登録数			15施設
6) 健康サポート薬局研修（修了証交付）	新規		1,146名

[平成28年度からの累計]	延長(更新)	117名
	新規	12,483名
	延長(更新)	117名

**4 委員会**

- (1) 研修認定制度委員会（開催なし）
- (2) 漢方薬・生薬研修委員会（開催なし）
- (3) 小児薬物療法研修委員会（1回）
  - 令和2年10月19日(月)
- (4) 小児薬物療法研修委員会試験問題作成委員会（1回）
  - 令和2年10月19日(月)
- (5) 認定実務実習指導薬剤師認定委員会（開催なし）
- (6) 薬剤師生涯学習達成度確認試験運営協議会（開催なし）
- (7) 薬剤師生涯学習達成度確認試験実務委員会（開催なし）

**5 広報**

- (1) 「研修センターニュース」の発行（毎月約3,800部）
- (2) インターネットホームページによる事業の紹介
- (3) メールマガジン配信（毎月約33,000件）

**II 出版・監修関係**

- (1) 研修手帳発行数
 

(合計)	47,313冊
販売分	8,201冊
更新分	39,112冊
新卒者贈呈分	0冊
- (2) 病態・薬理シリーズテキスト頒布数
 

(合計)	1,839冊
大腸がん1冊、乳がん680冊、心不全272冊、前立腺がん553冊、高血圧症333冊	
- (3) 編集書籍
  - 医薬品・医療機器・再生医療等製品GLPガイドブック2020（令和2年7月編集（株）薬事日報社発行）
  - 医薬品・医療機器・再生医療等製品GCP／GPSPガイドブック2020（令和2年7月編集（株）薬事日報社発行）
  - 第十七改正日本薬局方医薬品情報 JP DI 2016（平成28年4月編集（株）じほう発行） 第6刷発行（令和2年11月）
- (4) 受託作成事業
  - 申込数 0件
- (5) 特別賛助会員が実施する研修会の監修
  - 監修申請件数 0件

**III 法人関係****1 理事会、評議員会**

(理事会)

令和2年6月 令和2年度第1回理事会（決議の省略方式による）

決議があったと見なされた日 令和2年6月18日(水)

- (1) 令和元年度事業報告
- (2) 令和元年度決算
- (3) 薬剤師研修支援システム拡充費用積立預金に係る代表理事が定める令和元年度の積立額の確定
- (4) 内閣府提出資料（事業報告等に係る提出書）
- (5) 就業規則の特例等を定める件の廃止
- (6) 評議員会の開催並びに評議員の選任候補者

令和2年10月13日(火) 令和2年度第2回理事会

- (1) 評議員会の開催及び監事の選任候補者
- (2) 名誉顧問の選任
- (3) 代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況（報告）
- (4) 薬剤師研修・認定電子システムの状況（報告）

令和2年11月 令和2年度臨時理事会（決議の省略方式による）

決議があったと見なされた日 令和2年11月17日(月)

- 特定費用準備資金のうち薬剤師研修・認定電子システム整備費用積立預金の一部目的外取崩し

令和3年3月8日(月) 令和2年度第3回理事会

- (1) 令和3年度事業計画
- (2) 令和3年度収支予算
- (3) 特定費用準備資金
- (4) 代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況（報告）
- (5) 電子化の状況（報告）
- (6) 認定薬剤師の認定状況等（報告）
- (7) 新型コロナウイルスの感染拡大防止措置に係る対応（報告）

(評議員会)

令和2年度第1回評議員会（決議の省略方式による）

決議又は報告があったと見なされた日 令和2年6月25日(水)

- (1) 令和元年度決算
- (2) 評議員の選任
- (3) 令和元年度事業報告（報告）

令和2年度臨時評議員会（決議の省略方式による）

決議又は報告があったと見なされた日 令和2年10月22日(水)

- 監事の選任

## 2 賛助会員

令和3年3月31日現在

- |             |            |
|-------------|------------|
| 賛助会員（個人）    | 367名（385名） |
| 特別賛助会員（企業等） | 32団体（34団体） |

### 特別賛助会員一覧（五十音順）

EAファーマ株式会社	全薬工業株式会社
あすか製薬株式会社	大正製薬株式会社
アステラス製薬株式会社	大日本住友製薬株式会社
イーエヌ大塚製薬株式会社	田辺三菱製薬株式会社
一般社団法人医薬総合研究会	株式会社ツムラ
株式会社MDPS	一般財団法人日本医薬情報センター
大塚製薬株式会社	一般社団法人日本女性薬剤師会
グラクソ・スミスクライン株式会社	公益社団法人日本薬剤師会
クラフト株式会社	有限会社ビックロコ
クレコンリサーチアンドコンサルティング株式会社	株式会社ファーマシィ
興和株式会社	藤本製薬株式会社
小太郎漢方製薬株式会社	富士フィルム富山化学株式会社
佐藤製薬株式会社	学校法人北陸大学 薬学部
三栄源エフ・エフ・アイ株式会社	株式会社メディセオ
株式会社じほう	株式会社薬事日報社
公益財団法人杉浦記念財団	湧永製薬株式会社

## 貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	103,581,041	95,405,035	8,176,006
未収金	784,613	60,924,579	△60,139,966
前払金	9,888,492	3,521,582	6,366,910
棚卸資産	360,269	3,145,470	△2,785,201
貯蔵品	1,094,869	1,819,330	△724,461
未取消費税等	10,398,200	0	10,398,200
流動資産合計	126,107,484	164,815,996	△38,708,512
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	187,432,237	188,225,737	△793,500
投資有価証券	451,921,500	451,128,000	793,500
基本財産合計	639,353,737	639,353,737	0
(2) 特定資産			
退職給付引当預金	70,165,142	65,985,041	4,180,101
薬剤師研修・認定電子システム整備費用積立預金	100,000,000	200,000,000	△100,000,000
事務所移転等費用積立預金	349,073,000	346,073,000	3,000,000
薬剤師研修支援システム拡充費積立預金	181,440,000	225,000,000	△43,560,000
特定資産合計	700,678,142	837,058,041	△136,379,899
(3) その他固定資産			
建物付属設備	792,882	999,757	△206,875
什器備品	970,400	1,048,234	△77,834
ソフトウエア	78,454,256	54,957,191	23,497,065
電話加入権	518,336	518,336	0
敷金	20,647,008	20,647,008	0
その他固定資産合計	101,382,882	78,170,526	23,212,356
固定資産合計	1,441,414,761	1,554,582,304	△113,167,543
資産合計	1,567,522,245	1,719,398,300	△151,876,055
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	43,217,493	154,840,506	△111,623,013
前受金	515,900	17,163,300	△16,647,400
預り金	439,321	431,761	7,560
仮受金	0	0	0
未払法人税等	5,221,700	5,936,400	△714,700
未払消費税等	0	19,154,400	△19,154,400
流動負債合計	49,394,414	197,526,367	△148,131,953
2. 固定負債			
退職給付引当金	70,165,142	65,985,041	4,180,101
固定負債合計	70,165,142	65,985,041	4,180,101
負債合計	119,559,556	263,511,408	△143,951,852
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産合計	479,050,000	479,050,000	0
(うち基本財産への充当額)	(479,050,000)	(479,050,000)	(0)
2. 一般正味財産	968,145,489	976,836,892	△8,691,403
(うち基本財産への充当額)	(160,303,737)	(160,303,737)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(630,513,000)	(771,073,000)	(△140,560,000)
正味財産合計	1,447,962,689	1,455,886,892	△7,924,203
負債及び正味財産合計	1,567,522,245	1,719,398,300	△151,876,055

## 正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益 基本財産受取利息	[4,622,000] 4,622,000	[4,418,827] 4,418,827	[203,173] 203,173
② 特定資産運用益 特定資産受取利息	[21,155] 21,155	[57,305] 57,305	[△36,150] △36,150
③ 受取会費 賛助会員受取会費	[7,180,000] 7,180,000	[7,680,000] 7,680,000	[△500,000] △500,000
④ 受取寄附金 受取寄附金	[500,000] 500,000	[500,000] 500,000	[0] 0
⑤ 事業収益 認定事業収益 研修手帳収益 研修事業収益 テキスト収益 研修会開催申請 出版事業収益 図書編集監修料 受託事業収益	[549,813,597] 419,358,005 21,527,000 51,975,492 25,242,408 25,064,207 6,646,485 0 0	[841,265,613] 662,115,823 29,562,116 74,172,965 25,397,901 42,977,338 7,039,470 0 0	[△291,452,016] △242,757,818 △8,035,116 △22,197,473 △155,493 △17,913,131 △392,985 0 0
⑥ 雜収益	[10,411,241]	[3,257]	[10,407,984]
経常収益計	572,547,993	853,925,002	△281,377,009
(2) 経常費用			
① 事業費 役員報酬 職員給与 通勤手当 福利厚生費 賃金鼠上費 退職給付費用 旅費交通費 通信運搬費 減価償却費 印刷製本費 諸謝金 会議費 事務所費 事務費 業務委託費 諸雜費 ソフトウェア償却費 貯蔵品期首在高 期首貯蔵品残高額 貯蔵品期末在高 期首棚卸資産残高額 棚卸資產期首在高 棚卸資產期末在高	[567,991,833] 14,419,920 96,047,095 3,214,684 16,768,775 38,577,566 5,114,410 441,341 45,769,610 659,213 34,561,532 4,245,535 5,558,516 26,986,530 91,769,109 156,129,600 338,800 23,879,935 1,791,072 28,258 △1,094,869 0 3,145,470 △360,269 [7,258,663] 役員報酬 職員給与 通勤手当 福利厚生費 賃金鼠上費 退職給付費用 旅費交通費 通信運搬費 減価償却費 印刷製本費 諸謝金 事務所費 事務費 会議費 諸雜費	[652,663,129] 3,499,920 99,832,114 3,302,307 17,603,541 35,105,539 5,348,904 7,307,003 43,550,996 735,050 55,698,732 8,077,681 7,967,532 26,831,216 117,654,508 200,595,030 0 14,654,530 4,620,010 2,291,722 △1,819,330 0 2,951,594 △3,145,470 [18,680,102] 840,080 1,511,380 207,436 532,150 45,607 69,331 304,472 96,121 34,696 0 0 1,420,343 2,197,047 0 0	[△84,671,296] 10,920,000 △3,785,019 △87,623 △834,766 3,472,027 △234,494 △6,865,662 2,218,614 △75,837 △21,137,200 △3,832,146 △2,409,016 155,314 △25,885,399 △44,465,430 338,800 9,225,405 △2,828,938 △2,263,464 724,461 0 193,876 2,785,201 [△11,421,439] △9,770,000 3,158 67,013 △125,947 45,607 △32,679 △181,601 △60,075 △3,991 △692,064 △409,795 8,173 △222,738 0 0 △46,500
経常費用計	575,250,496	671,343,231	△96,092,735
当期経常増減額	△2,702,503	182,581,771	△185,284,274
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	[0]	[0]	[0]
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用 過年度振替修正	[0]	[0]	[0]
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	[0]	[0]	[0]
税引前当期一般正味財産増減額	△2,702,503	182,581,771	△185,284,274
法人税、住民税及び事業税	5,221,700	5,936,400	△714,700
当期一般正味財産増減額	△7,924,203	176,645,371	△184,569,574
一般正味財産期首残高	976,836,892	800,191,521	176,645,371
一般正味財産期末残高	968,912,689	976,836,892	△7,924,203
II 指定正味財産増減の部	0	0	0
当期指定正味財産増減額	479,050,000	479,050,000	0
指定正味財産期首残高	479,050,000	479,050,000	0
指定正味財産期末残高	1,447,962,689	1,455,886,892	△7,924,203
III 正味財産期末残高			

## 新規加入賛助会員のご紹介

原田 圭子（岡山県） 斎藤 充生（東京都） 小川 由子（福岡県） 橋元 良枝（鹿児島県）  
(敬称略)

研修認定薬剤師数	111,519名	認定実務実習指導薬剤師数	26,329名	小児薬物療法認定薬剤師数	755名
漢方薬・生薬認定薬剤師数	3,568名	個人賛助会員数	356名	特別賛助会員数	31社

令和3年7月末日現在

※なお、各都道府県別認定薬剤師の氏名は当財団ホームページに掲載しています（3か月毎に更新しています）。



### 薬剤師研修・認定電子システム（PECS）について

当財団では、薬剤師の研修及び認定手続きの電子化を進めています。

これは、現在は書類を用いて行っているものを、すべて電子的な方法で行うこととするものです。

そのため、新たに、薬剤師研修・認定電子システム（PECS）を構築しています。PECSの稼働後は、研修の受講や認定申請等はこのシステムのみで行うことになります。

- 概要をホームページに掲載していますので、ご覧下さい。随時更新します。掲載場所はホームページの「各種認定制度等を知る」→「認定手続き等の電子化（お知らせ）」です。
- 現在、本稼働に先行して薬剤師のPECS登録を行っています。登録方法は上記1の掲載場所の「2-2 薬剤師のPECS登録（令和3年3月版）」に記載していますので、良く読んでいただき、ご登録下さい。
- 質問は電子メールのみで受け付けます。pecs-info@jpec.or.jpにお寄せ下さい。回答は個別には行わず、取りまとめてホームページに掲載します。
- 電子化後は研修受講シールは発行されませんが、それまでに取得した研修受講シールは、薬剤師研修手帳又は研修受講シール整理表に貼付して、認定申請時に提出して下さい。